

学校マネジメント自主研修会

日田市校長会

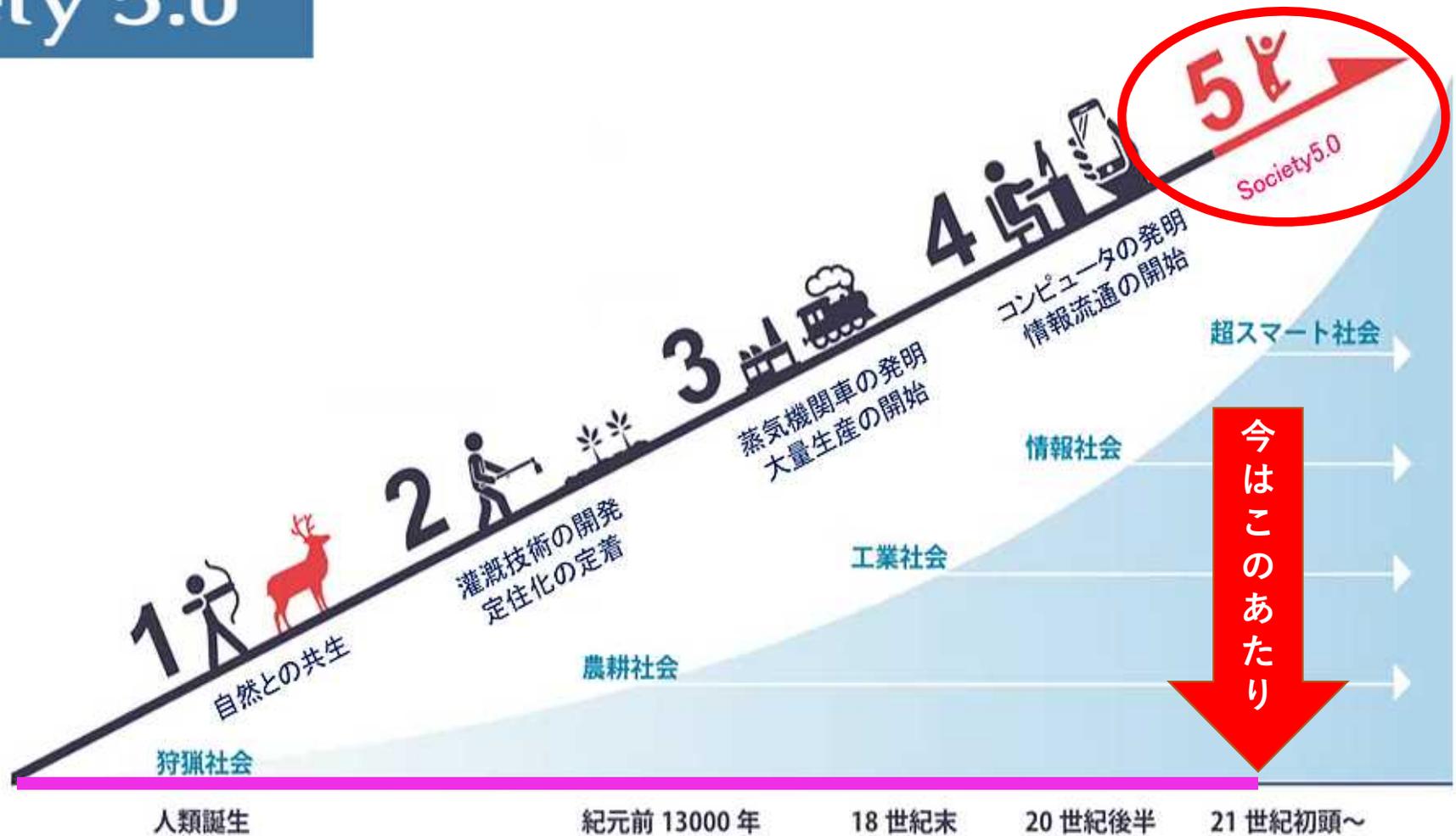
令和3年9月13日（月）

大分県教育庁日田教育事務所

目の前の子どもたちが生きる

Society 5.0のイメージは？

What is Society 5.0



子どもたちが生きる未来

Society 5.0で実現する社会

・子どもたちの % は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く（キャシー・レビッドソン氏）

・今後10~20年程度で約 % の仕事が自動化される可能性が高い（マイケル・A・オスボーン氏）



いきなりですが

”Ice Breaking”

大分県内で見られる夕日



どのあたりと思いますか？

大分県内で見られる夕日

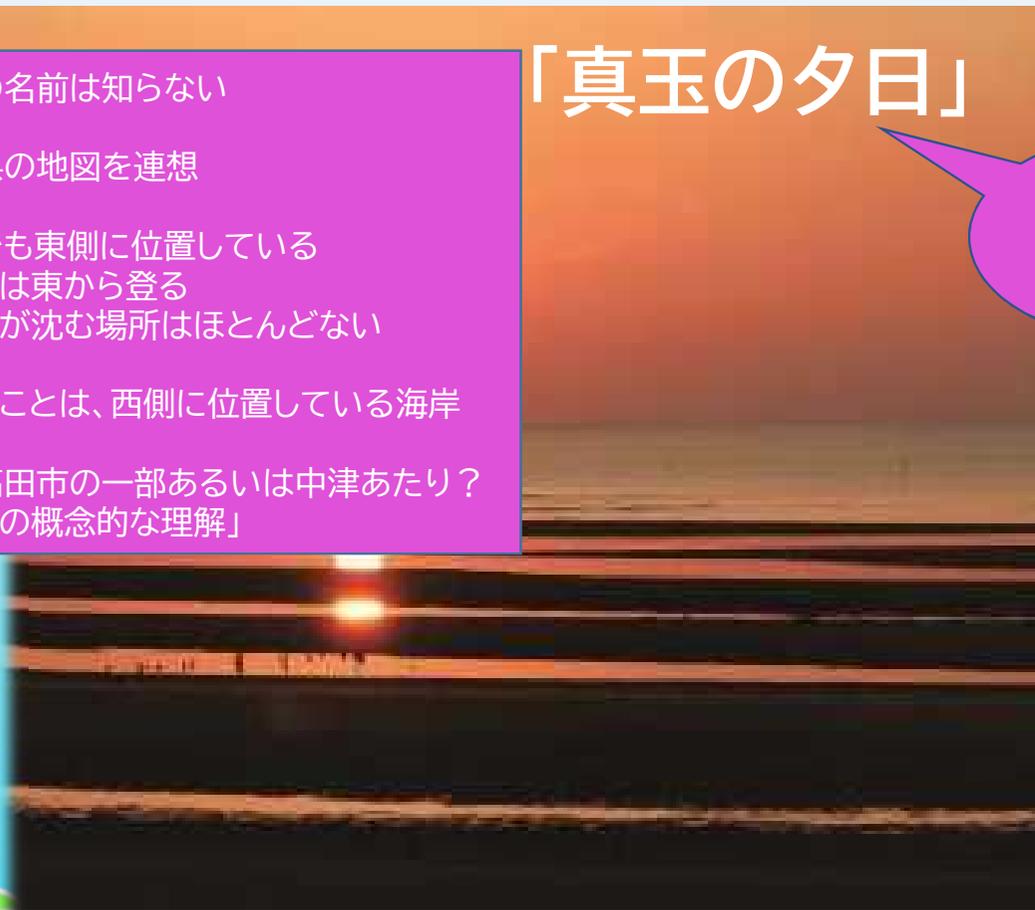
このあたり



- 場所の名前は知らない
- ↓
- 大分県の地図を連想
- ↓
- 九州でも東側に位置している
 - ・太陽は東から登る
 - ・夕日が沈む場所はほとんどない
- ↓
- ということは、西側に位置している海岸
- ↓
- 豊後高田市の一部あるいは中津あたり？
「知識の概念的な理解」

「真玉の夕日」

事実としての知識



どのあたりでしょうか??

子どもは 何のために学ぶの？

「ラーニングコンパス」と「エージェンシー」

出典：R.2.3 OECD教育スキル局 鈴木文孝氏

VUCAな時代

世界は、ますます・・・

VOLATILE 不安定

UNCERTAIN 不確実

COMPLEX 複雑

AMBIGUOUS 曖昧

ツールとして

OECD 学びの羅針盤 2030

OECD LEARNING COMPASS 2030

- 何のために学ぶのか？
- どのようにして学ぶのか？
- どんな力が必要なのか？

ラーニング・コンパスという比喻は、生徒が、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で、進むべき方向を見出す必要性を強調する目的で採用されました。

目的

生徒エージェンシー

生徒エージェンシー：

- 生徒が自分の人生や周りの世界に対してポジティブな影響を与えうる意思と能力を持っている
- 変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力

より良い未来を創る主体としての生徒

- 社会の課題や新たな可能性を当事者意識をもって発見する主体
- 自らの行動で自分や自分の周りをより良い方向へ変えられるという自己効力感をもつ主体
- 変化の目的の意味や意義を見出し、価値づけできる主体
- その目標を達成するために責任を持って行動する主体

働きかけられるというよりも自らが働きかけることであり、型にはめ込まれるというよりも自ら型を作ることであり、また他人の判断や選択に左右されるというよりも責任を持った判断や選択を行うこと

共同エージェンシー

生徒エージェンシーは、生徒の自治や声、選択とは異なる。

「共同エージェンシー」の重要性
=Agencyは他者との関係性の中で存在

共同エージェンシー：

- 生徒が、共有された目標に向かって邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒同士との、双方向的な互いに支え合う関係

保護者や仲間、教師、コミュニティは生徒が持つエージェンシーの感覚に影響を与え、また生徒もそれらのエージェンシーの感覚に影響を与え、成長やウェルビーイングにより影響を与える好循環をつくる
=エージェンシーが、有機的にそれぞれ他のエージェンシーと関係し合い、成長と学びが可能になる

「目的地」 = 社会のウェルビーイング

ウェルビーイング: 幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態

EX:

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること (日本WHO協会仮訳)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



OECD のウェルビーイング項目と国連の持続可能な開発目標の関連性

目的地: OECD ウェルビーイング	国連の持続可能な開発目標
1. 仕事	8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤を作ろう
2. 所得	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 10. 人や国の不平等をなくそう
3. 住居	1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を
4. ワーク・ライフ・バランス	3. すべての人に健康と福祉を 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
5. 生活の安全	16. 平和と公正をすべての人に
6. 主観的幸福	すべての目標に関連している
7. 健康状態	3. すべての人に健康と福祉を
8. 市民参加	5. ジェンダー平等を実現しよう
9. 環境の質	6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 12. つくる責任 使う責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう
10. 教育	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
11. コミュニティ	11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう

出典：
OECD Learning Compass 2030 仮訳
文科省初等中等教育局、秋田喜代美氏ら

本日のメニュー

① 学校教育の役割(存在意義)

② 目的達成のための手段の有効活用

～手段を明確にすることを通して～

○ 学校マネジメント

- ・「学校の教育目標」

- ・「学校評価の4点セット」「学校マネジメントの4つの観点」

○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

～「令和の日本型学校教育」の構築を通して～

本日のメニュー

① 学校教育の役割(存在意義)

② 目的達成のための手段の有効活用

～手段を明確にすることを通して～

○ 学校マネジメント

- ・「学校の教育目標」

- ・「学校評価の4点セット」「学校マネジメントの4つの観点」

○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

～「令和の日本型学校教育」の構築を通して～

① 学校教育の役割

「学校の役に立つ」
県教育庁日田教育事務所

(教育の目的)

第一条 教育は、の完成を目指し、平和で民主的な国家及びの形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

手段

「令和の日本型学校教育」構築を目指して ～全ての子ども
ち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～
(答申) 令和3年1月26日 中央教育審議会 より

日本の学校教育はこれまで、**学習機会と学力を保障するという役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心につながるることができる居場所としての福祉的な役割も担ってきた。**

---- (中略) ----

学校における働き方改革やGIGAスクール構想を強力に推進するとともに、新学習指導要領を着実に実施し、学校教育を社会に開かれたものとしていくこと、また、文部科学省をはじめとする関係府省及び教育委員会、首長部局、教職員、さらには家庭、地域等を含め、学校教育を支える全ての関係者が、それぞれの役割を果たし、互いにしっかりと連携することで、「令和の日本型学校教育」の実現に向けた必要な改革を果敢に進めていくことを期待するものである。

① 学校教育の役割

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会の在り方が劇的に変わる
「Society5.0時代」
の到来

新型コロナウイルスの
感染拡大など先行き不透明な
「予測困難な時代」



ICTの活用



新学習指導要領
の着実な実施



一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要。

本日のメニュー

① 学校教育の役割(存在意義)

② 目的達成のための **手段の有効活用**

～手段を明確にすることを通して～

○ **学校マネジメント**

・「学校の教育目標」

・「学校評価の4点セット」「学校マネジメントの4つの観点」

○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

～「令和の日本型学校教育」の構築を通して～

② 目的と手段の明確化

「学校の役に立つ」
県教育庁日田教育事務所

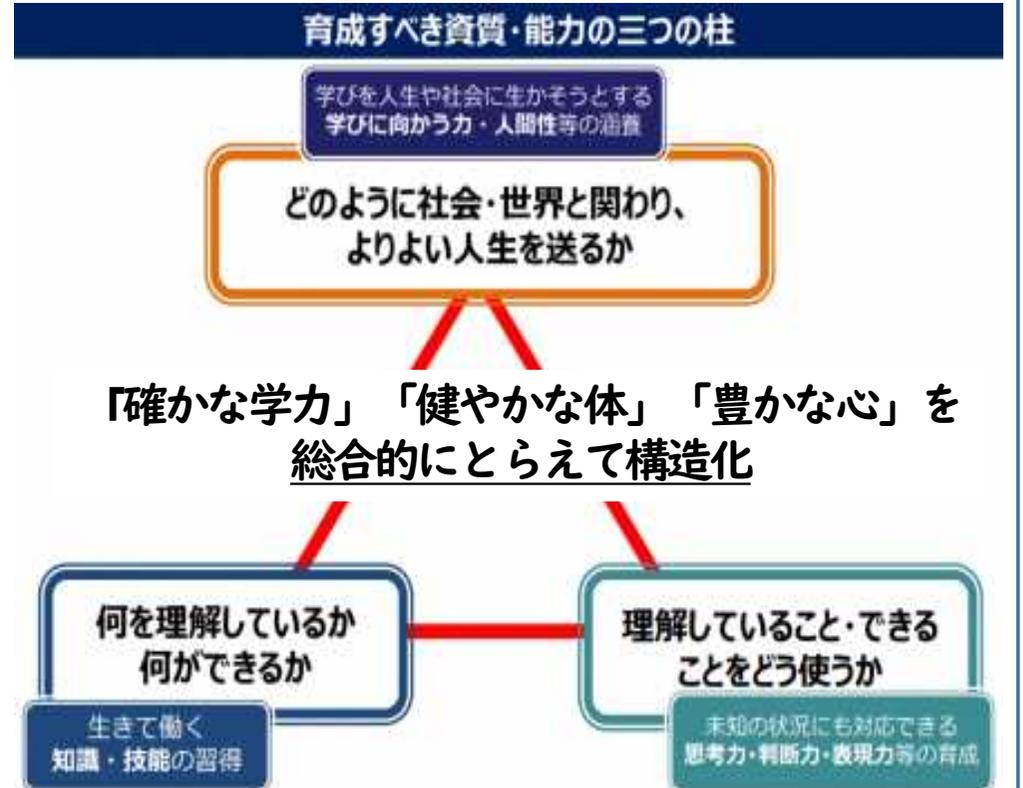
何を教えるか

学習指導
要領改訂

何ができるようになるか

・現行学習指導要領は、各教科等において「**教員が何を教えるか**」という観点を中心に組み立てられており、一つ一つの学びが何のためか、どのような力を育むものかは明確ではない。このことが、各教科等の縦割りを超えた指導改善の工夫や、指導の目的を「何を知っているか」ととどまらず「**何ができるようになるか**」に発展させることを妨げている背景ではないかとの指摘もある。

第109回中央教育審議会（2016年12月21日）



学習指導要領「総則」p. 3, pp. 34-39

2つの「資質・能力」

- ① 教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力 (3つの柱)
- ② 学校として育成を目指す資質・能力
(目指す子ども像を支える)

何を理解しているか、何ができるか

生きて働く**知識・技能**の**習得**

基礎的リテラシー

各教科等に関する個別の知識や技能



個別の事実に知識のみを指すものではなく、
それらが**相互に関連付けられ**、
さらに社会の中で**生きて働く知識**となる

○事実としての知識

○知識の概念的な理解

「指導と評価の一体化 P.9」

理解していること・できることをどう使うか
未知の状況にも対応できる、**思考力・判断力・表現力**等の**育成**

認知スキル



協同的な
問題解決



知識・技能の
活用



情報活用能力
表現

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性**の涵養

社会スキル



主体的に学習
に取り組む態
度



感情や行動を
統制する力



メタ認知



リーダーシップ
チームワーク
優しさ、思いやり

「学校の教育目標」(9のマトリクス)

「学校の役に立つ」
県教育庁日田教育事務所

← 学校の教育目標設定

学校の教育目標

知識 技能
思考力 判断力 表現力
学びに 向かう力・ 人間性

知

「知」に関する、子ども、学校の実態
○
○
●

①
②
③

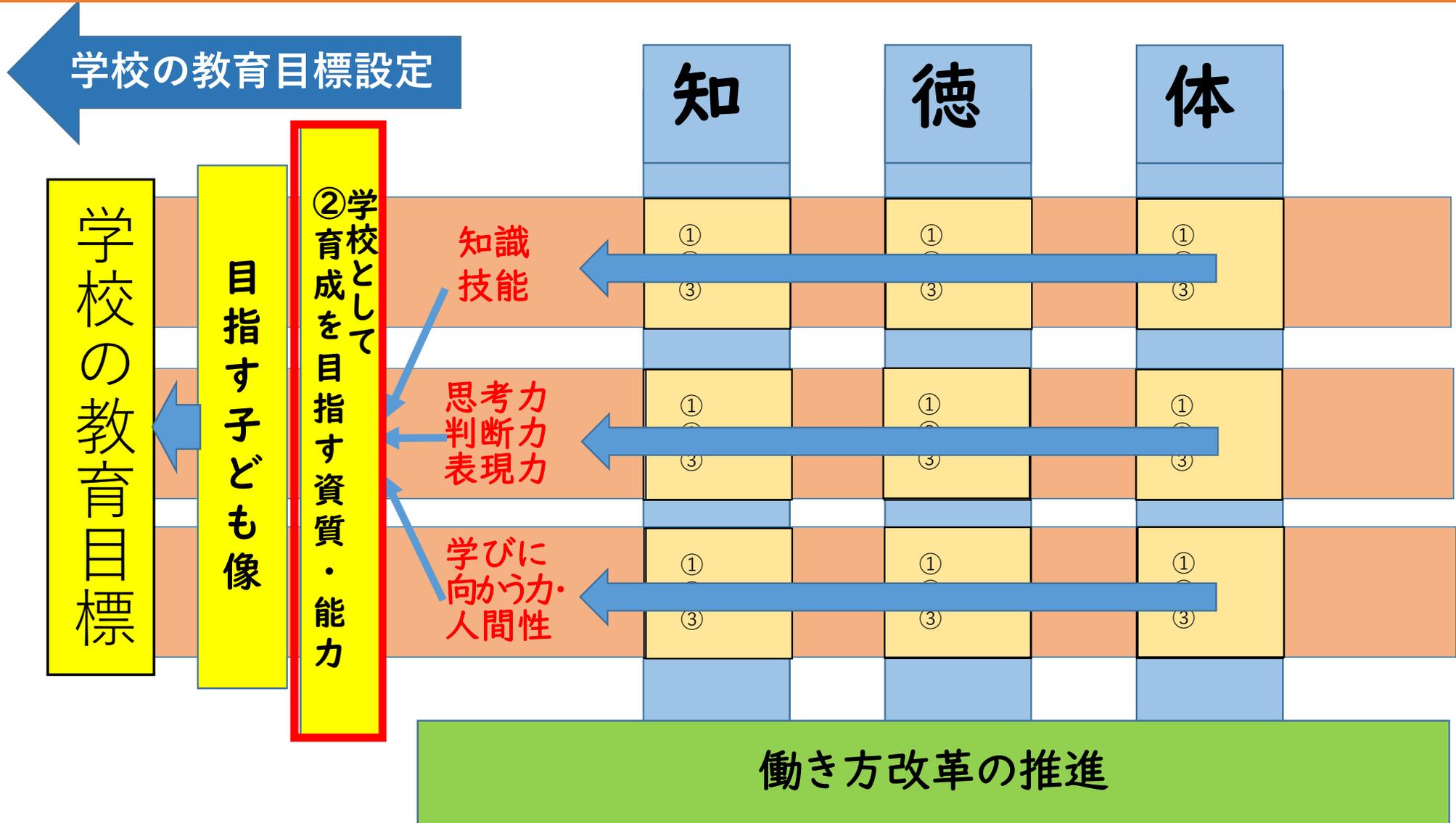
「知」に関する**知識・技能**を分析

- ①問題 (現状。良い点も)
- ②課題 (問題となった要因)
- ③子どもにつけたい
具体的な資質・能力

働

①教育課程全体を通して育成を
目指す資質・能力(3つの柱)

「学校の教育目標」(9のマトリクスから②学校として育成を目指す資質能力)



①教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力(3つの柱)

2つの「資質・能力」

学校として
② 育成を目指す資質・能力

あなたの学校の
「子どもに付けたい力」は？

例 教科等横断的な視点に立った資質・能力 (学習指導要領 総則)

小学校 pp.47-52 中学校 pp.48-53

(1) 学習の基盤となる資質・能力

○言語能力 ○情報活用能力 ○問題発見・解決能力等

(2) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

○健康・安全・食に関する力 ○主権者として求められる力
○新たな価値を生み出す豊かな創造性・・・・・・・・

他にも、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度 等

「学校評価の4点セット」 ゴールイメージ

「学校の役に立つ」
県教育庁日田教育事務所



学校として
② 育成を目指す資質・能力
例 「言語能力」

校長



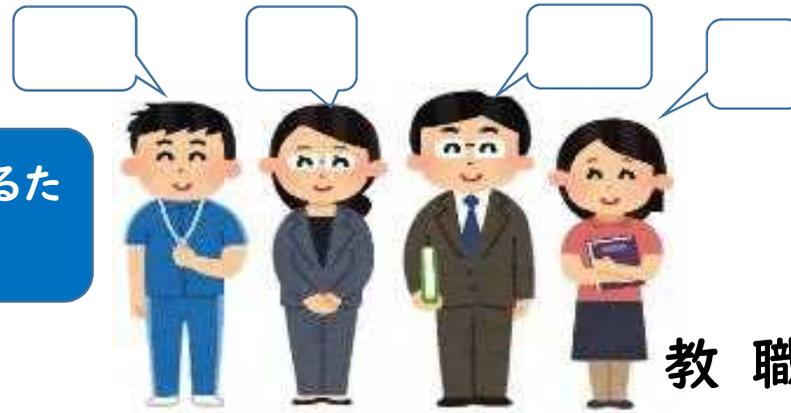
教頭



主任等



子ども達



教職員

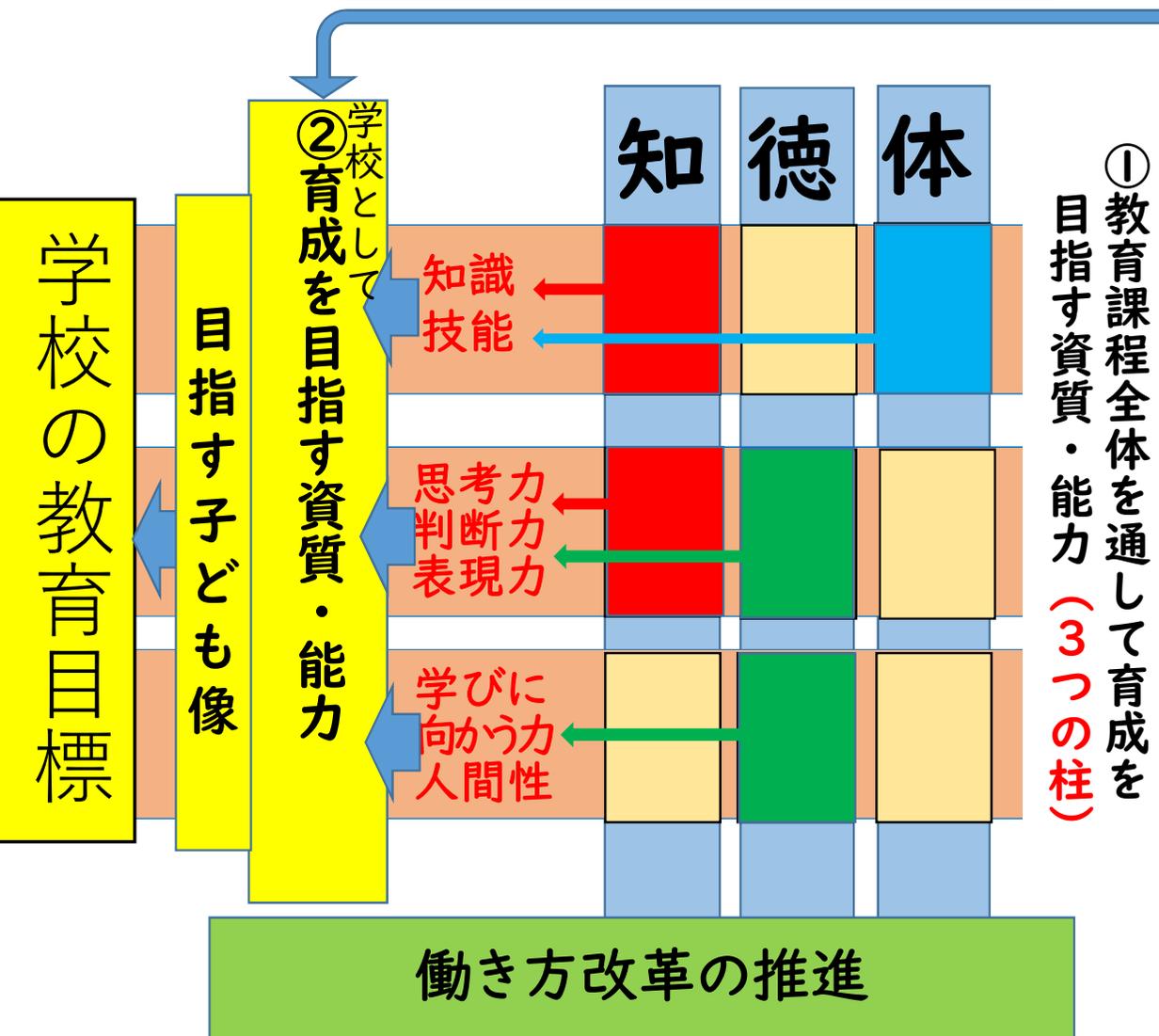


保護者・地域の方

子ども達が「言語能力」を身につけるために、私は〇〇をします。

私達は言葉を大切にします。
だから、私は〇〇をします。

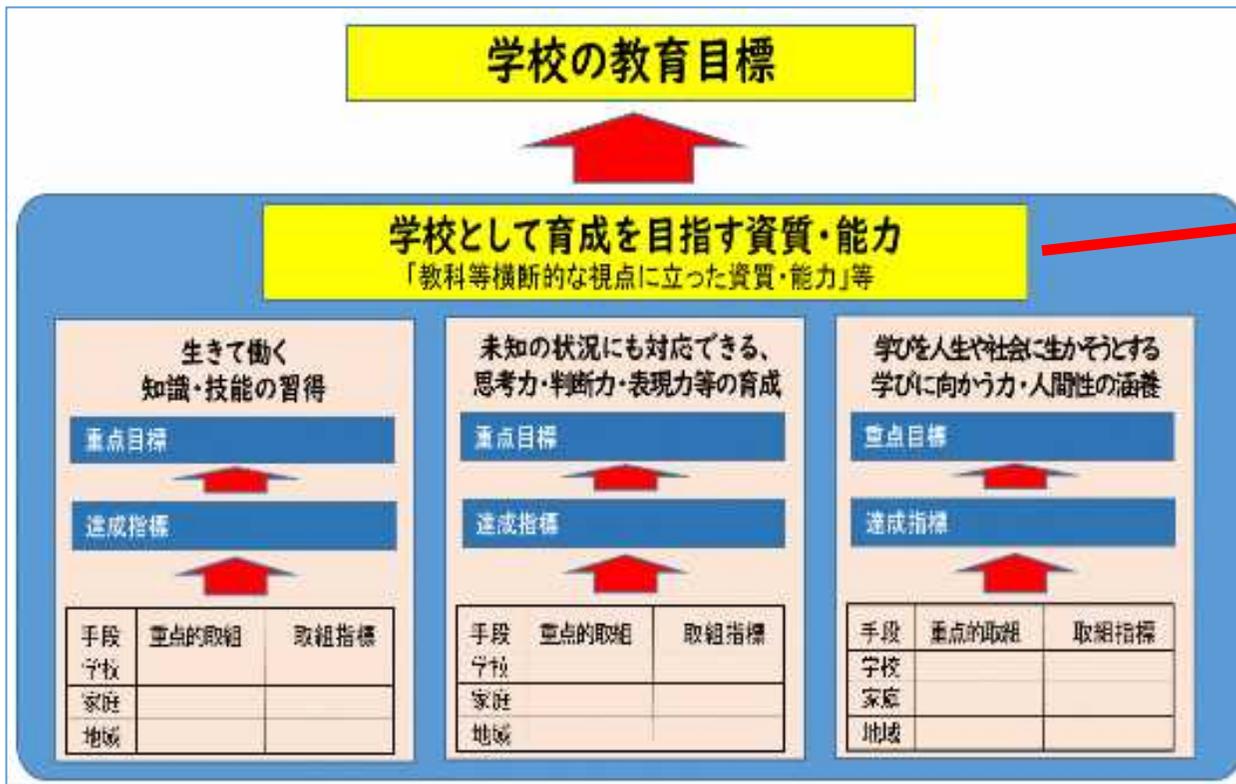
「学校評価の4点セット」 つくり方



①教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力(3つの柱)

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
基礎基本の定着と 読解力の向上 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○村標準学力調査において、目標値を上回る生徒の割合を60%以上にする。 ○定期テストにおける7割以上の生徒の出現率を各定期テストにおいて40%以上にする。 ○定期テストにおける3割未満の生徒の出現率を10%以下にする。 	知 体	<ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習の手引」をもとに家庭学習にスムーズに取りかかれるよう、週1回以上の声かけを行う。 ○学習に向かう環境整備 ○学校公開日への積極的参加 ○月1回の学校公開日に積極的に参加し、アンケートによる評価を行う。
問題解決能力の育成 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ○下記の生徒アンケートにおいて、肯定的な割合を80%以上 -「授業や学校生活において、友だちと協力して課題解決のための取り組みを行うことができた」 	知 徳	<ul style="list-style-type: none"> ○「年中 情報機器類 使用宣言」の徹底 ○学期ごとの、家庭生活アンケートをもとに、取組状況の改善策を親子で話し合い取り組む。 ○ふるさと科への参画 ○学校の要請に基づいて、授業や体験活動での指導者・講師として協力する。
意欲的に粘り強く 取り組む力の育成 学びに向かう力・人間性	<ul style="list-style-type: none"> ○上記において、肯定的な割合を80%以上 -「授業や家庭学習において、最後まで諦めずに取り組むことができた」 -「学級活動や生徒会活動に、友だちと協力して積極的に取り組むことができた」 -「自分の生活習慣を見直 	徳	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習強化週間に基づく生活習慣の改善 ○定期テストごとに家庭学習強化週間を設定し、毎日の振り返りを親子で行うことによって、生活習慣を改善する。 ○あいさつの啓発活動の推進 ○年3回の連携会議、毎月のあいさつ運動において、生徒の取組の状況について、意見を学校の代表者に伝える。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ○「業務改善・効率化により負担軽減を実感している」と回答する教職員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ICTアドバイザーの活用推進 チーム学校の確立推進 一残業をめざす 目標協働達成に向けたPTA活動の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業準備やホームページ管理等にICTアドバイザーを活用して業務改善を図る。 ○チーム学校で指導体制の整備を行う。 ○PTA活動を見直し、目標協働達成に向けた組織となるように取組を進める。

【観点Ⅰ】 「育成を目指す資質・能力」の明確化



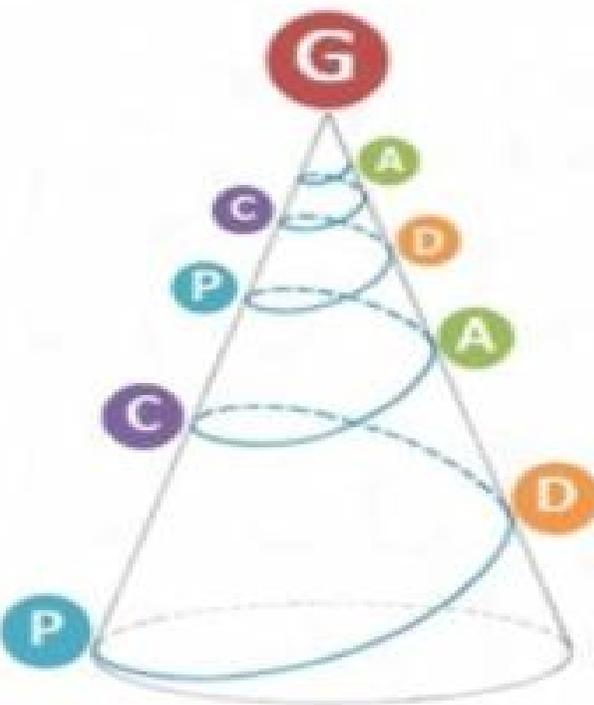
第3ステージ「学校評価の4点セット」(例)

学校の教育目標を、「自ら課題を見つけ、仲間と協働しながら課題に取り組む」

育成を目指す資質・能力：問題発見・解決能力、協働性

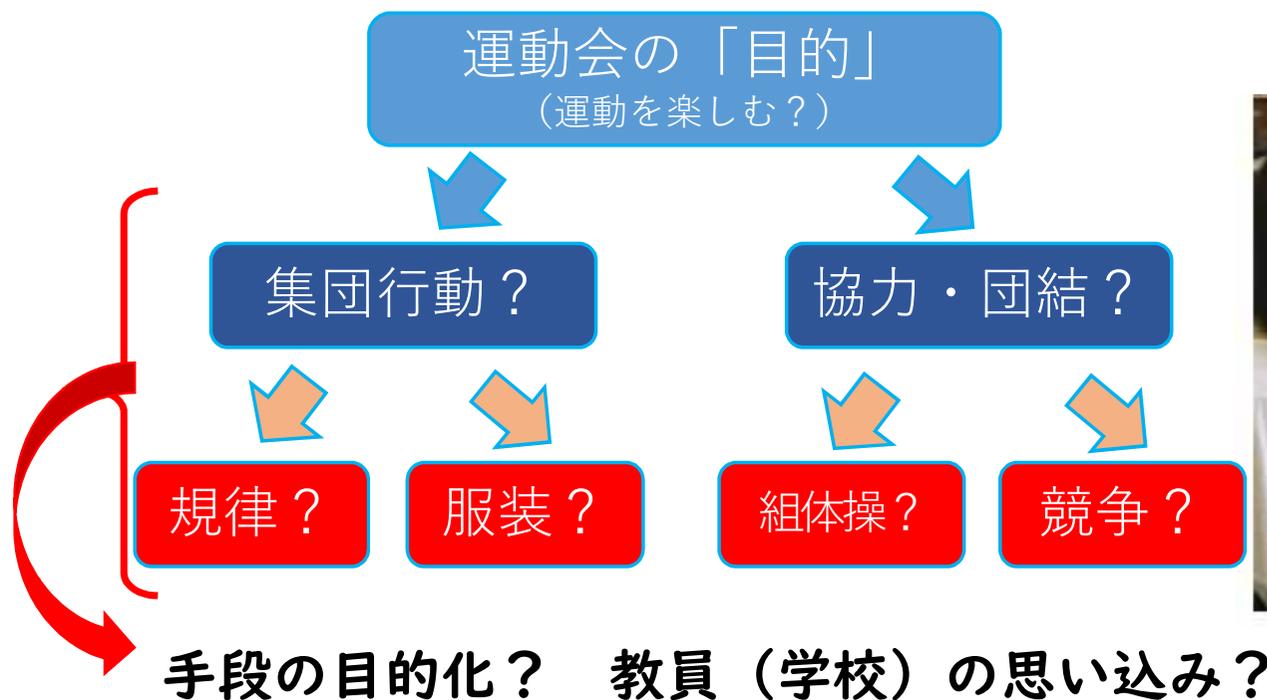
重点目標	達成指標	重点的取組	(誰が、何を、)
【知識及び技能】 「分かる・できる」	○ 単元テストで40点未満の児童を0にする。	学校 ○ 習熟度に応じた指導 ○ 運動の日常化	○ 授業者は、努力を要す一歩か補助発問等)を
	○ 体力調査の8割の項目で県平均を下回る		○ 教職員は、週一回の「に、2回/月は一緒に

【観点Ⅱ】 教育課程の改善につながる 検証・改善プロセスの質の向上



資質・能力 (3本柱)	学校評価の4点セットの各項目			
	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
生きて働く 知識・技能 の習得	← 目標	ゴールイメージ (子どもの姿)	手段	
未知の状況にも対応できる、 思考力・判断力・ 表現力等 の育成	← 目標	ゴールイメージ (子どもの姿)	手段	
学びに向かう力・ 人間性 の涵養	← 目標	ゴールイメージ (子どもの姿)	手段	

【観点Ⅲ】 主任等が役割を果たし、学校運営の効率化を目指した ミドル・アップ・ダウン・マネジメントの推進



出典：学校の「当たり前」をやめた（工藤勇一）等

【観点Ⅳ】 家庭・地域の主体的な取組に向けた熟議の推進

日田市教育委員会の方針

咸宜園教育⇒誇り

「咸宜」＝個性尊重

「敬天」＝善行の積み重ね

「治めて、後教える」

＝学びに向かう力

出典：内外教育 2021.8.27



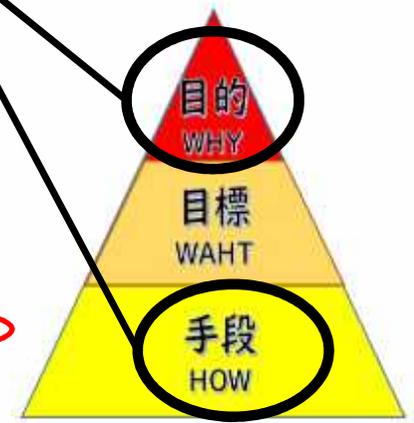
協育

「CS 4つの柱」

- ① 咸宜園教育
・ふるさと学習
 - ② 防災教育・安全管理
 - ③ キャリア教育
 - ④ 学習支援
- ※ 育友会：
一緒に子どもを育てる

出典：内外教育 2021.8.27

生きて働く 知識・技能の習得				未知の状況にも対応できる、 思考力・判断力・表現力等の育成				学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養			
重点目標				重点目標				重点目標			
達成指標				達成指標				達成指標			
手段	重点的取組	取組指標		手段	重点的取組	取組指標		手段	重点的取組	取組指標	
学校				学校				学校			
家庭				家庭				家庭			
地域				地域				地域			



本日のメニュー

① 学校教育の役割(存在意義)

② 目的達成のための手段の有効活用

～手段を明確にすることを通して～

○ 学校マネジメント

- ・「学校の教育目標」

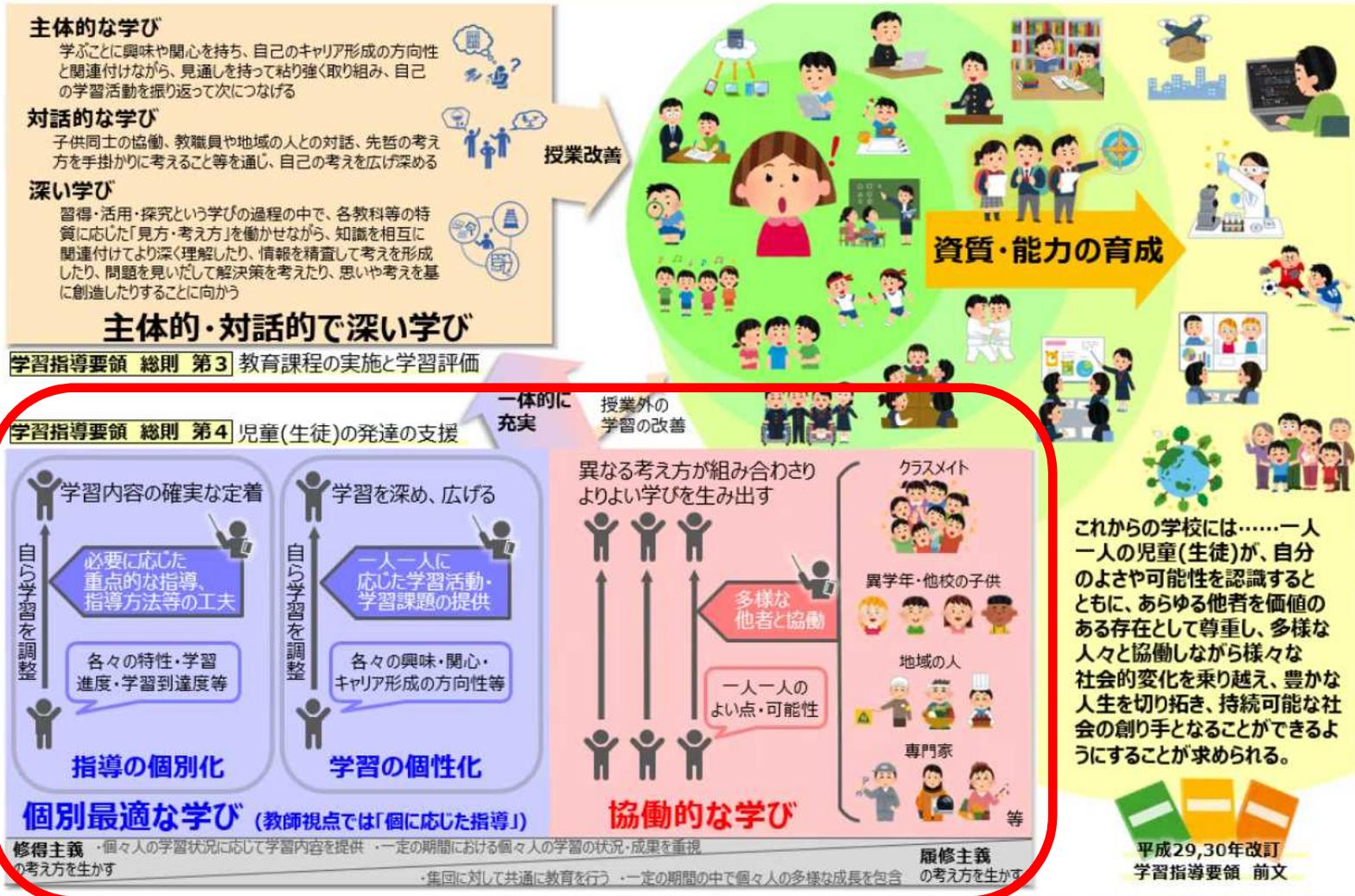
- ・「学校評価の4点セット」「学校マネジメントの4つの観点」

○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

～「令和の日本型学校教育」の構築を通して～

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）



本資料は、(財)教育研究振興財団の協賛により、平成29年12月に文部科学省及びその傘下教育課程部会(以下「部会」とする)に基き、概念を簡略化し図等として整理したものである。

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果
1

知・徳・体を一体で育む 「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価

学習
指導



生徒
指導

児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行う

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子供たち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2.日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果
2

全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割

1

学習機会と学力の保障



2

全人的な発達・
成長の保障



3

身体的、精神的な
健康の保障



「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

新たな動き

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

新学習指導要領の 全面実施

「主体的・対話的で深い学び」
の実現へ



学校における 働き方改革の推進

「学校における働き方改革
推進本部」を設置

「公立の義務教育諸学校
等の教育職員の給与等
に関する特別措置法の一部
を改正する法律」が成立

GIGA スクール構想

学校の臨時休業等の緊急時
においても不安なく学習が
継続できることを目指す



教育振興基本計画の理念 (自立・協働・創造) の継承



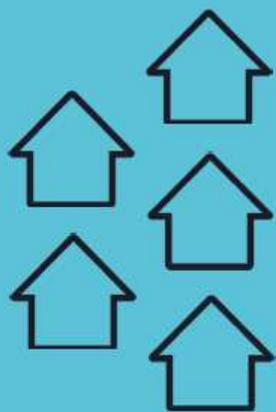
「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

子供たちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げるが・・・

課題 1



本来であれば
家庭や地域で
なすべきこと

担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大



「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

課題
2

子供たちの多様化

特別支援教育を受ける児童生徒の増加



いじめの重大事態

貧困

不登校児童生徒数の増加等

外国人児童生徒等の増加

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

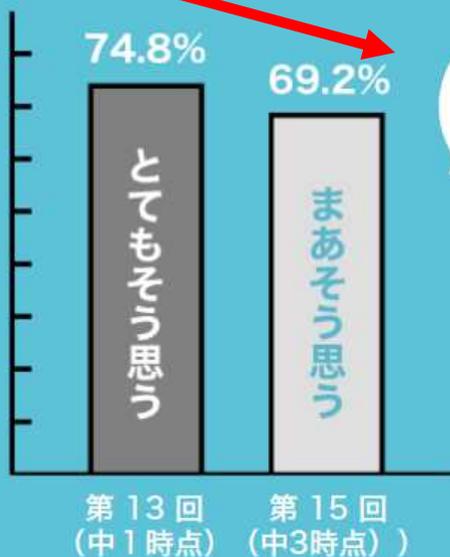
～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

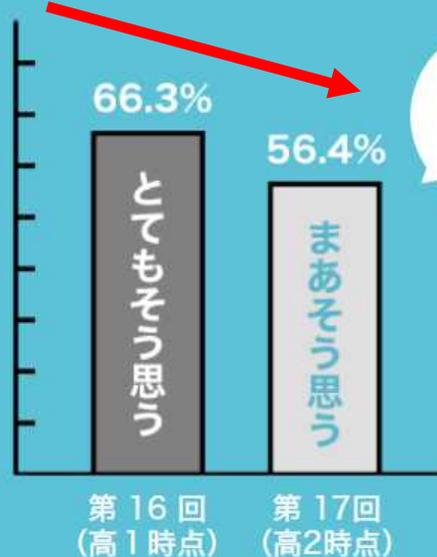
課題
3

生徒の学習意欲の低下

楽しいと思える授業がたくさんある



中学生
時点



高校生
時点

出典 カタリスト for edu

文部科学省・厚生労働省
「21世紀出生児縦断調査
(平成13年出生児)」

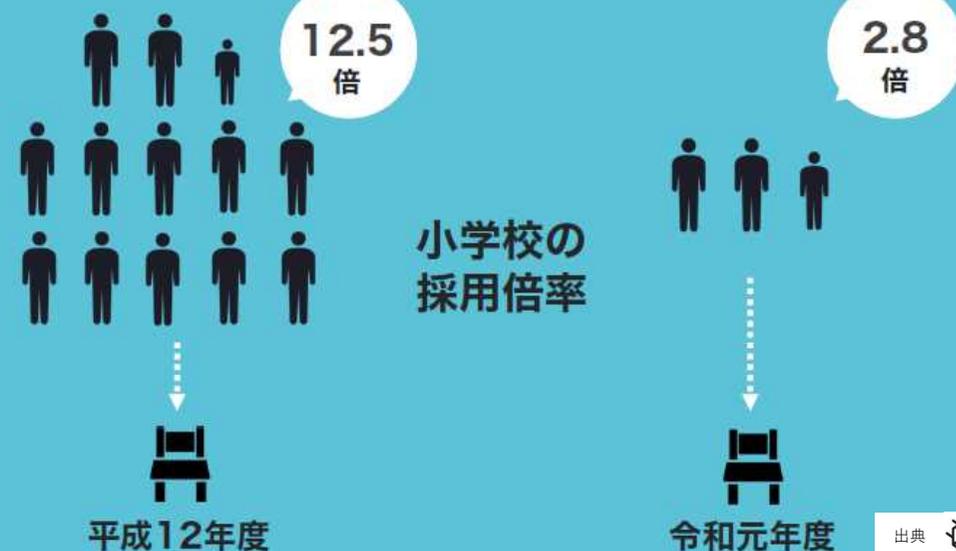
「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

課題
4

教師の長時間勤務による疲弊や
教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化



出典 カタリスト for edu

文部科学省「令和元年度公立学校教員採用選考試験の実施状況について」

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

課題 5

学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ

自分の考えを他者に伝えるように
根拠を示して説明
することに課題



学校の授業（国語、数学、理科）で
デジタル機器の利用時間が短く、
OECD加盟国中最下位



約80%

国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能7 OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）—2018年調査国際結果報告書』
（令和元（2019）年12月9日）

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

2.日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

課題 7

新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

「同時双方向型のオンライン指導」
の実施状況は公立学校の
設置者単位で 15%

文部科学省「新型コロナウイルス感染症の影響を
踏まえた公立学校における学習指導等に関する
状況について（令和2（2020）年6月23日時点）

臨時休校中「何をして良いか分からず」
学びを止めてしまう

これまでの学校教育では、自立した
学習者を十分育てられていなかった
のではないかと？

双方向型
（教員⇔子ども）
が早期に必要



平常時から ICT を積極的に活用

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿



「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

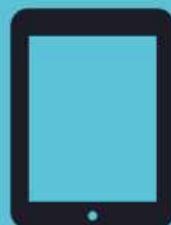
3. 2020年代を通じて実現すべき 「令和の日本型学校教育」の姿

指導の個別化-1

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得

より支援が必要な子供

より重点的な指導などによる効果的な指導



ICTの
活用



専門性の
高い教師

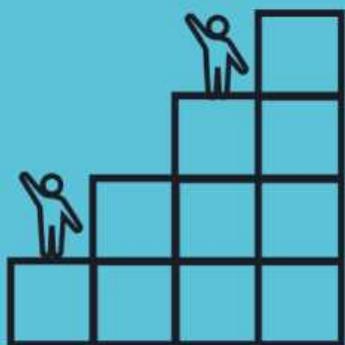
「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき 「令和の日本型学校教育」の姿

指導の個別化-2

自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成



子供たち一人一人の
特性や学習進度等に応じて



「自立した学習者」へ



指導方法・教材等
の柔軟な提供・設定

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき 「令和の日本型学校教育」の姿

学習の個性化-1

教師が学習活動や学習課題に取り組む機会を提供



教師



基礎的・基本的な
知識・技能等

言語能力，情報活用能力，問題発見・
解決能力等 の学習の基盤となる
資質・能力等

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき 「令和の日本型学校教育」の姿

学習の個性化-2

主体的に学習を
最適化することを
教師が促す



「自立した学習者」へ

自ら学習を調整



「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき 「令和の日本型学校教育」の姿

協働的な学び-1

基礎的・基本的な知識等を確実に習得させる

様々な場面でのリアルな体験を通じた学び

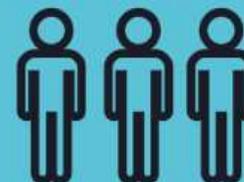


教師と子供の
関わり合い



子供同士の
関わり合い

ICTの活用による他の
学校の子供との学び合い



「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき 「令和の日本型学校教育」の姿

協働的な学び-2

多様な意見を共有しつつ
合意形成を図る

持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を育成

学校ならではの協働的な学び合い



地域の方々をはじめ
多様な他者と協働した探究的な学び



「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき 「令和の日本型学校教育」の姿

子供の学び（各学校段階を通じた学び）

幼児教育



小学校



中学校



高等学校



大学・社会



一貫して、自らの将来を見通し、社会の変化を踏まえながら、
自己のキャリア形成と関連付けて学び続けている。

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

教職員の姿

学びを最大限に引き出す



教師が学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供たち一人一人の学びを最大限に引き出す



多様な人材の確保や教師の資質・能力の向上により質の高い教職員集団が実現し、多様なスタッフ等とチームとなり、校長のリーダーシップの下、家庭や地域と連携しつつ学校が運営

働き方改革の実現

教師が創造的で魅力ある仕事であることを再認識

志望者が増加

教師自身も志気を高め誇りを持って働く

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた 今後の方向性

個別最適な学び×協働的な学び
“ベストミックス”

(3) これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する

ICTや先端技術の効果的な活用



新学習指導要領の着実な実施
個別に最適な学びや支援
可視化が難しかった学びの
知見の共有等が可能

GIGAスクール構想の実現

ハイブリッド化



教師が対面指導と遠隔
オンライン教育とを使いこなす
ことで、学びの質を向上

教師による対面指導や 児童生徒同士による学び合い



多様な体験活動の重要性が一層
高まる中で、ICTを活用しながら
協働的な学びを実現し、多様な
他者とともに問題発見・解決に
挑む資質・能力を育成

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

（2）ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

学校教育の質の向上に向けてICTを活用するためには、養成・研修全体を通じ教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境を実現することが必要である



教員養成大学・学部や教職大学院は、Society5.0時代の教師の養成を先導する役割を果たすことが期待される。さらに現職の教師に対しては、国によるコンテンツ提供や都道府県等における研修の更なる充実等により、ICT活用指導力の一層の向上を図ることが急務。

いかに学ぶか



どう支援するか

我が国ならではのICTの活用モデルを確立していくために、教師は、授業研究の積み重ねにより、「子供はいかに学ぶか」「どう支援するか」を問い直していく。



教員養成大学・学部や教職大学院、国立大学附属学校は、不断の授業改善に取り組む教師のネットワークの中核としての役割を果たしていくことが求められる。

「令和の日本型学校教育」構築を目指して

～全ての子どもたち可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会 より

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

(3) ICT環境整備の在り方

セキュリティ対策



自治体等の学校の設置者が整備する教育情報セキュリティポリシー等において、クラウドの活用を禁止せず、必要なセキュリティ対策を講じた上でその活用を進めることが必要。

持ち帰り



更新



端末の家庭への持ち帰りを可能とすることが望まれる。さらに、数年後に迎える端末の更新については、出来るだけ早急に関係者間で丁寧な検討を行っていくことが必要。

蓄積



分析・利用

教育データを蓄積・分析・利活用できる環境の整備、ICTを活用した学びを充実するためのICT人材の確保、ICTで校務を効率化することによる学校の働き方改革の実現などが重要。

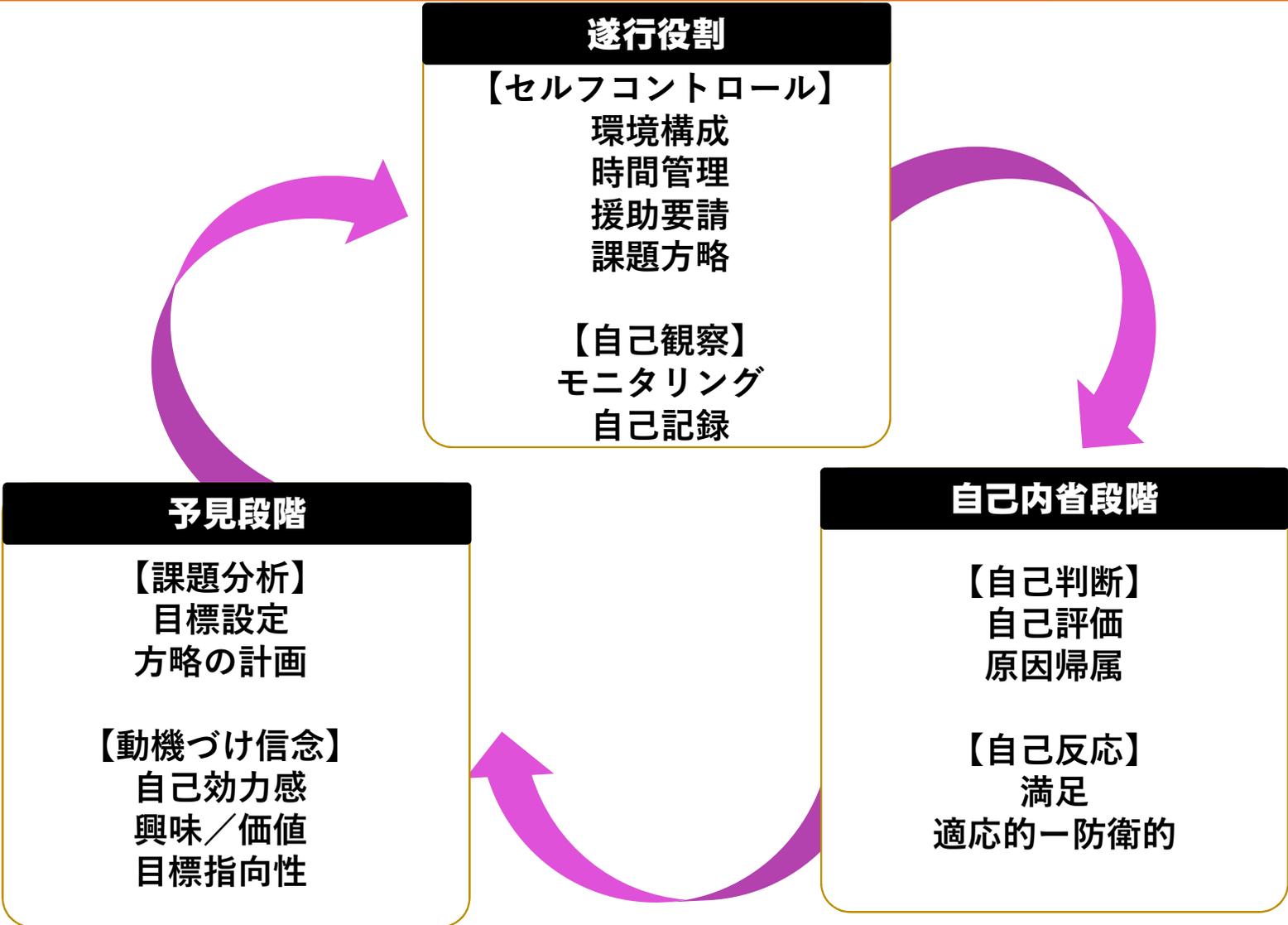
クラウド・1人1台端末の持ち帰りで変わる家庭学習 NHKエデュケーショナル
各自で検索お願いします：<https://www.youtube.com/watch?v=a3dwHzH0Sb8>

Spring 2021
配信元：Google for Education
企画・制作：NHK エデュケーショナル

クラウド・1人1台端末の持ち帰りで変わる家庭学習

自己調整学習サイクル

(出典：Zimmermann,2011 より作成)



自立した学習者の育成

「令和の日本型学校教育」構築 と 新大分標準の「有効的」活用



新大分標準のすすめ

新大分標準で主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

- 主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」
- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

- *思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

- 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開
- *各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
- ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
- ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充



個別最適な学び

指導の個別化

指導者

学習の個性化

学習者

自己効力感 往還

協働的な学び

メタ認知活動

担保

内発性
自立性

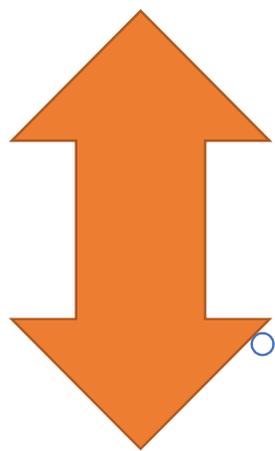
ストレス減

支持的
風土の醸成

H31.3月版

「令和の日本型学校教育」構築 と 新大分スタンダードの「有効的」活用

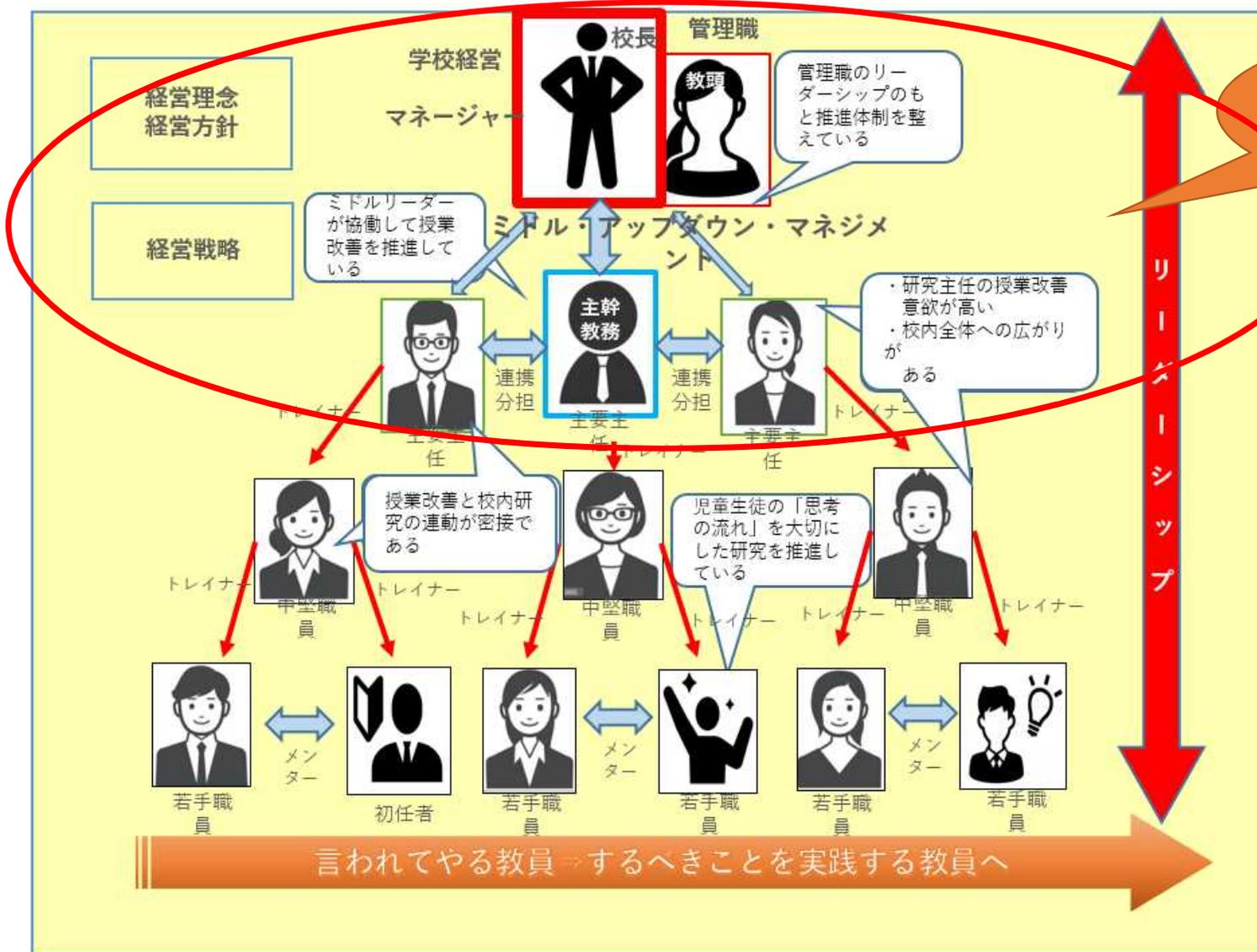
「学校の教育目標（目指す子ども像）」からブレイクダウンした“取組指標を意識した”授業実践をする



“右脳”と“左脳”
をバランスよく
使いましょう

日常的に子どもの姿から目標に迫っていること（あるいは、そうではないこと）を“感じ取る”

ちなみに・・・



皆さんのいる「位置」は？

言われてやる教員 → するべきことを実践する教員へ